

JESCOにおける地域連携に関する取組

中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）
中間貯蔵事業部次長

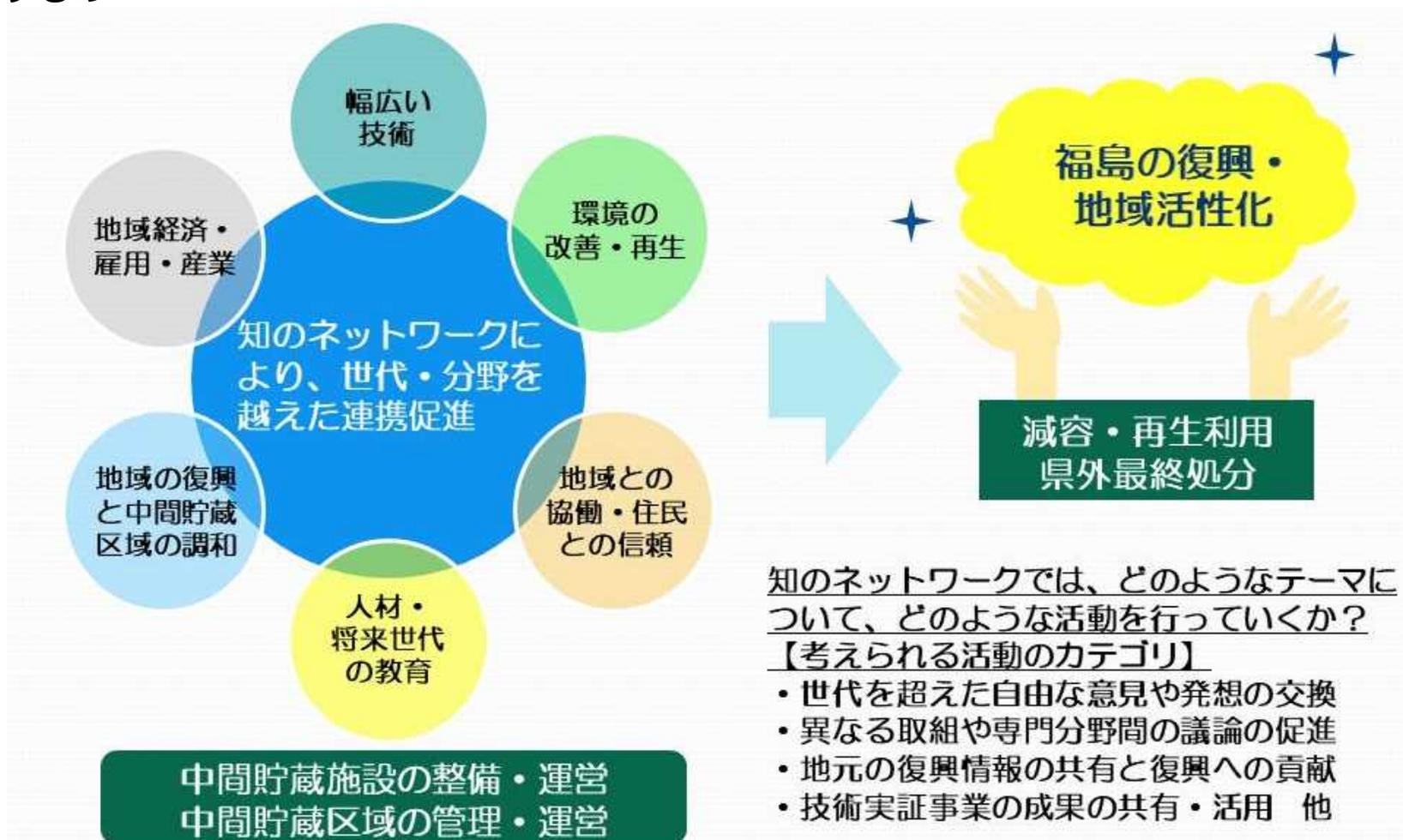
小岩 真之

減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク①

1. 趣旨

知のネットワークは中間貯蔵事業や復興に向けた調査・検討・研究・技術開発に携わる産官学の方々のゆるやかなネットワークであり、長い中間貯蔵事業の期間を見据えて、さまざまな話題を語り合えるサロンとしての情報交換などを行うものであり、これまでに会合を4回開催した。

2. 目指すもの



減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク②

3. これまでの活動

2020年9月3日 知のネットワーク 第1回会合
～さまざまな方々をつなぐ緩やかなネットワークづくり～

オープニング 第1回会合の開催にあたって

第1部 減容・再生利用等の研究開発の進展

第2部 これからのネットワーク化のめざすもの(座談会)

2021年1月29日 知のネットワーク 第2回会合
技術実証事業成果発表会 (第1回)

技術実証事業の概要紹介

技術実証事業の成果発表

- グループ1. 除去土壌の再生利用等の技術開発
- グループ2. セシウムの効率的分離による除去土壌等の減容の技術開発

総合ディスカッション

2021年7月1日 知のネットワーク 第3回会合
技術実証事業成果発表会 (第2回)
～若者からみた中間貯蔵事業に係る情報発信について～

中間貯蔵事業、技術実証事業の概要紹介

第1部 技術実証事業の成果発表(理解醸成)

第2部 意見交換会

- ①若者によるショートプレゼン
- ②中間貯蔵事業に係る情報発信(JESCO)
- ③意見交換

2021年8月26日 知のネットワーク 第4回会合
技術実証事業成果発表会 (第3回)

技術実証事業の概要紹介

技術実証事業の成果発表(測定技術、再生利用等)

ディスカッション

3. 当面の方向性（案）

技術分科会

【ねらい】
技術の共有、活用

【メンバー】
技術実証に参加した事業者
中貯事業を受注した事業者
etc.

【進め方】
交流会、発表会
現地ツアー

地域分科会

【ねらい】
復興状況の共有
中貯事業の説明

【メンバー】
大熊町、双葉町
復興に携わる方々
etc.

【進め方】
少人数の会合から
徐々に広げていく

若者分科会

【ねらい】
若者への継承
若者からの提案

【メンバー】
県内外の学生
教育関係者
etc.

【進め方】
意見交換会、発表会
現地ツアー

全体会合

【ねらい】 各分科会の成果の共有、交流
【進め方】 年一回程度、全体会合を開催

思い出写真集・写真館事業

① 思い出写真集の作成・配付

- 地元の方々から地域に根ざした写真をお借りし、思い出を伺う。
- 写真と思い出からなる写真集を作成し、行政区や町役場等へ配布。
- 工事情報センターの来館者にもご覧いただく。

② 思い出写真館の整備・発信

- 思い出写真集をデジタル化し、年代や場所等で検索可能なDBを整備。
- 工事情報センターやインターネットで発信。

5 郡山神楽

現時点の思い出写真集のイメージ

撮影時期: 全て2018年(平成30年)
場所: 正八幡神社



郡山神楽はお正月やお祭り等で披露。時代とともに神社でしか奉納されなくなったが、昔は新築のときや村祈祷・厄払いとして行われていた。郡山の神楽は幕舞・幣束舞・鈴舞・四方固めなど七つの舞で構成されている。

今年度到大熊町熊川行政区、双葉町郡山行政区で試行し、来年度以降に順次拡大予定。

中間貯蔵工事情報センターの館内の様子



大熊町・双葉町に関する展示

大熊町、双葉町からいただいた情報を元に、両町を紹介するパネルと両町の最新状況を動画で紹介するタッチパネルモニターを展示。

【両町を紹介するパネル】

【タッチパネルモニター】



大熊町は、いわき市より北に49km、宮城県仙台市より南に103kmの地点にあり、福島県浜通りの中央部に位置します。東は太平洋に面し、西は阿武隈山系の分水嶺をもって田村市と境し、南は富岡町、川内村に北は浪江町、双葉町に隣接しています。大熊町は、1954年11月1日に大野町と熊町村が合併し、総面積78.70平方キロメートルの町として発足しました。



町の木(松)



町の花(桜)



町の鳥(鷹)

熊川稚児鹿舞

熊川字宮ノ上の諏訪神社に伝わる舞いで、大熊町の無形民俗文化財に指定されています。稚児の獅子とされ、昔は夏祭りの本祭りとして、その前後の「オコソコ」に諏訪神社の氏子の中の長男によって奉納されていました。震災・原発事故で一時的に中断しましたが、2014年7月、会津若松市の仮設住宅で開かれた夏祭りでも披露され、4年ぶりの復活を遂げました。





熊川のサケ

阿武隈山系から太平洋に注ぐ熊川にはサケが遡上し、古くからサケ漁が行われていました。昭和に入ると地元と漁業組合が発足、河口近くにやなもやな化漁船が整備され、年内3番目の漁獲量を誇りました。東日本大震災時の津波で漁船は壊され、全町避難のため稚魚の放流も中断しましたが、2017年3月、6年ぶりに放流が再開されました。



熊町小

大熊町立の小学校は大野小と熊町小、中学校は大熊中がありました。小学校の運動会の集日には相馬野馬追の神楽争奪戦に反響した熊鹿舞があり、前れた町民の皆さんを盛り上げました。熊町小の校舎には地震で壊れた際、置いたままにした児童のランドセルや教科書などが残っています。町立小中学校は震災の翌月、避難先の会津若松市で再開しました。



梨畑

豊かな土壌と温暖な気候に恵まれた大熊町では向來、梨の栽培が盛んに行われてきました。今も、豊水、新高、秋露など多彩な品種は町内外を問わず人気があり、梨ととも秋の風物詩でした。病害やキウイウイルスを農家は農薬もおり、これらを原料にワインも生産されました。梨畑は中間貯蔵施設の用地となった熊川、小入野、矢野地区にもあります。

*中間貯蔵施設に含まれる地域の施設・文化をご紹介しています。



双葉町は東に太平洋、西に阿武隈山系をのぞむ、海と山にいだかれた豊かな自然を誇る町です。福島県浜通り地方のほぼ中央にあたり、双葉郡の北東部に位置しています。JR常磐線と国道6号が平行しながら町の中心部を南北に縦断し、南は大熊町、北は浪江町に接しています。また、国道288号で県の中央部である郡山市と結ばれています。総面積は、51.42平方キロメートルです。



町の樹(もみぢ)



町の花(桜)



町の鳥(雉)

双葉町ダルマ市

双葉町で江戸時代から続くといわれている伝統行事。毎年1月上旬に開催されます。お化け物の「双葉ダルマ」は年間を通じてこの町だけ販売され、多くの方が買います。また、梨山の商店街が並び、町の中心に置かれた巨大ダルマを南北にわかれた梨園客が引き合う「巨大ダルマ引き」や「高野聖」・「鬼年」などの行事も盛りだくさん。また、「奉納神楽」など賑やかな催しが行われます。東日本大震災以降も町民有志団体「夢太夫」により継続して毎年開催されています。





国指定文化財「前戸船儀次」

古墳時代の古瓦、7世紀用字に集約されたと考えられている前戸船儀次墓群の一つで、町立双葉町小学校敷地造成工事の際に発見されました。東日本を代表する古墳時代の遺跡です。船頭と船客の両方に赤色顔料で描かれており、中央に七重の渦巻、その左右には手を広げた人物と手をかけた人物、船尾人物が描かれています。渦巻の下には弓を射る狩人、次、親子などが生き生きと描かれています。

*国指定文化財(国指定) 平成29年(2017年)12月指定



双葉海水浴場

県庁舎が認定する日本の水浴場65選(平成10年(1998年))、日本の水浴場68選(平成13年(2001年))、快水浴場百選(平成14年(2002年))に選ばれました。特に快水浴場百選では福島県内で唯一認定されました。夏には多くの海水浴客やキャンプ場利用者で賑わい、百部園のサーファーにも人気があるサーフスポットです。

*国指定文化財(国指定) 平成29年(2017年)12月指定



前戸の大杉

県指定天然記念物、福島県最大の文化財に登録されています。樹齢およそ800年、木の高さ24.5m、幹周り8mもある巨木です。前戸地区の熊野神社境内にあり、寛永6年(722年)に当地者が天下げつに足踏られた際に鎮座設けのための御神木として植えられたとされています。

*国指定文化財(国指定) 平成29年(2017年)12月指定



大熊町



復興への取組



まちの話題



映像で見る大熊町

ボタンを押して選んでください。





双葉町



復興への取組



まちの話題



映像で見る双葉町

ボタンを押して選んでください。



中間貯蔵施設区域内の見学会（大熊コースの概要）

START

① 11:00 受入分別施設



② 11:30 サンライトおおくまからの眺望



③ 11:50 土壌貯蔵施設



④ 12:00 廃棄物貯蔵施設



⑤ 12:05 水産種苗研究所跡



⑥ 12:10 大熊町 仮設焼却施設



FINISH

中間貯蔵施設区域内の見学会（サンライトおおくま跡）



サンライトおおくまの外観



仮設展望台から土壌貯蔵施設等をご覧いただけます。



サンライトおおくまからの眺望